

探訪 北の風景 ⑨

工場夜景と室蘭焼き鳥

室蘭市

青木和弘

室蘭の街を観光するならば夜は欠かせない。市内各地にある展望台からの眺めは昼と夜では趣がガラリと変わる。それに室蘭焼き鳥があるではないか。香ばしく焼けた豚串と真っ赤に燃える炭火を前に熱燗を傾ける。そう思い浮かべただけで寒くて夜の長い冬も捨てたものじゃないと思えてくる。内浦湾に突き出た絵鞆半島にある祝津公園展望台は、昼間といえども横殴りの風が身を切るように冷たい。室蘭港をまたいで対岸の陣屋町に架かる白鳥大橋（1380メートル）の全容を眺めるには絶好の場所なのだが、背景の工場群の色合い

が邪魔になって橋がいまひとつ引き立たない。ところが午後4時も過ぎるとすっかり日は落ちて、24時間操業する大規模な工場プラントの照明が港の輪郭をくっきり照らしだし、光で装飾した白鳥大橋の優雅な曲線が浮かび上がる。

石油精製をやめ4月から石油化学工場に生まれ変わったJX日鉱日石エネルギー室蘭製造所（旧室蘭製油所）の、高さ180メートルの集合煙突が、36基の発光ダイオード（LED）で11月19日からライトアップされ、ひととき白く輝いている。

室蘭は「鉄の街」というイメージが強いが、経済環境の変化で工場は縮小され、従業員数は大幅に減少した。室蘭市の人口も1969年に約18万3千人あったが、現在は、その半分の9万人ほどだ。市はさまざまな経済活性化策を手がけるが、その一つが観光振興である。

変化に富んだ地形と美しい景観は、「新日本観光地100選」に選ばれた地球岬や、「日本の渚・百選」のイタンキ浜、「日本の灯台50選」のチキウ岬灯台など知られるが、市は夜景の魅力発信にも力が入っている。

それが「工場夜景」だ。2011年、川崎市と室蘭、四日市、北九州の4市が集まり「第1回全国工場夜景サミット」を開催。その後、山口県周南



JX日鉱日石エネルギー室蘭製造所。右に集合煙突が立つ

市を加え「5大工場夜景」としてアピールしている。室蘭の工場夜景スポットはたくさんあるが、とっておきはナイトクルージングだろう。室蘭港内から約1時間、夜景を堪能できる。5人以上での予約が必要だが、通年、運行している。ただ海が荒れると中止になる。詳細はスターマリン（電話0143・27・2870）まで。

夜景を楽しんだあとは室蘭焼き鳥である。豚肉、玉ネギ、洋がらしの3つがそろい、通常はタレで食べる。でもたいの店は塩でも焼いてくれるし、いまは鳥の各部位も品書きにある。





白鳥大橋とJX日鉱日石エネルギー室蘭製造所の集合煙突(左)を望む=写真はすべて室蘭市提供



室蘭焼き鳥は豚肉、玉ネギ、洋がらし

なぜ、室蘭焼き鳥は豚肉なのか、話は戦前までさかのぼる。1937年からの日中戦争で食糧増産と軍靴用の皮を確保するため養豚が奨励され、室蘭では皮と肉以外は地元で消費してよいことになった。そこで屋台が内臓肉を串に刺して焼き、「焼き鳥」と呼んだのが始まりだという。それ以来、豚は鉄の街の労働者の貴重なタンパク源、エネルギー源として今日に引き継がれているのだ。

豚肉、玉ネギ、洋がらしの組み合わせは、疲労回復や精神安定、血栓予防や免疫力向上などの効果があり、実に理にかなっている。ただ、食べ過ぎ、飲み過ぎはいけませんな。